

しゃべり場

卒業生31人が参加
財光寺小学校

18歳の悩みや夢を語り合う

進路相談から元担任、保護者らがエール
ら発展開催

2022/8/31
11日
日向

日向市の財光寺小学校へ卒業生（2016年度）28日、今年18歳を迎え「卒」を対価にした「しゃべり場」が開かれた。進路相談から元担任、保護者らがエールを届けた。



しゃべり場に集った参加者

しゃべり場は、同年卒業生1人から、6年次生も就職の岐路に立つ高学年が悩みや夢を語り合う、共有する機会を設けようと地域住民有志が主催して初めて行った。



悩みや夢を語り合う16年度財光寺小学校卒業生28日
財光寺小学校

（事）と、元PTA会長や保護者らと連絡を取り合い開催を決めた。

この日は、卒業生31人と森崎主事、同じく6年次の担任で現在、国庫小勤務の稲田保尚教諭（42）、当時の校長の三浦和幸さん（60）、県キャリア教育支援センター統括コーディネーターの水永正憲さん（73）、地域の人や保護者らが参加した。

しゃべり場では31人を6グループに分け、各グループに保護者や地域住民が進行役として同席。15分ほど同様に、メンバーを入れ替えてより多くの人と交流した。

多くが現在、高校生。生徒らは「英語を使った仕事がしたい」「まずは保育士をした後、児童福祉施設で働きたい」と将来の夢を語る一方、「親元を離れるのはうれしいが大丈夫かな」「看護実習が乗り越えられるか心配」「車の免許はいつ取ればいいのか」など不安や悩みを語り合った。

聴話もあった。水永さんは、社会に出て一番大事になるのは「仲間」であるとし、「いろんな仲間をつくること。また、小学時代の友達は、利害なくフランクに話せる大きな財産」と伝えた。

三浦さんは、自身も18歳の子を持つ親の立場から「明日が来るのが楽しみ」と思える日々を送ってほしい。男女関係なくいろいろな可能性に満ちあふれている」と激励。森崎主事、稲田教諭もそれぞれにエールを送った。

しゃべり場後は、写真を撮ったり、連絡先を交換したりして久々の再会を喜び合っていた。県外の大学に進学予定の松隈麻季さん（18）は「日向高は5、6年次担任の森崎先生にも会えたり、コロナ禍で会えなかった友人とも話せて楽しかった。将来について不安もあるけど、みんな志を持ってることが知れて安心したし、私も頑張ろうと思えた」と話した。

聴話もあった。水永さん